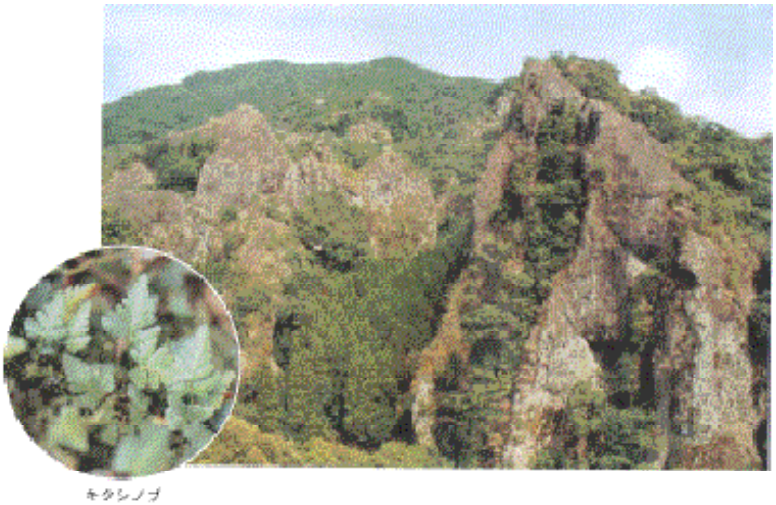
仙人岩の植物群落

【所　在　地】いちき串木野市冠岳 1352
【種　　別】県指定天然記念物
【指定年月日】昭和 29 年５月 24 日



キクシノブ

串木野市の北東にある 冠 岳は八重山山塊に連なる標高 516m の山で，西岳，中岳，東岳に分かれている。仙人岩とは，東岳山頂下にある冠岳神社裏側の集塊岩の小峰で，高さ 70m の絶壁に囲まれた場所である。

この岩の北側山頂付近には，キクシノブが自生し，スダジイやイスノキ，リュウキュウマユミ，サツマルリミノキ，リュウビンタイ，ミサオノキ，マルバアオダモ，タイミンタチバナ，ハヤトミツバツツジ，ザイフリボクなどを主とする暖地性植物群落が発達している。シイ林の中にはヤッコソウの自生も知られている。特にシダ植物のキクシノブは，台湾，琉球，屋久島及び紀伊，伊勢地方に自生し，九州本土ではここだけといわれてきた。（最近，宮崎県で自生地が発見されている。）

なお仙人岩には，西暦 580 年頃に用明天皇の命により，蘇我馬子が勅願所として頂峯院を建て，さらに熊野三所権現を西岳，中岳，東岳に建てた。冠岳神社はその本宮で，頂峯院の開山阿子丸仙人が，岩頭で修行した所ということで，仙人岩というようになったという言い伝えがある。